

花みずきだより

2012 年 冬号

通夜、葬儀の 2 日間、花みずきのおくりびとだけが
お式に携わっているわけではありません。

いろいろな業者さんが、裏方となって一つのお式を作り
上げてくれているのです。

例えば、お花屋さん。私たちが家の方と相談した
祭壇を作ってくださいます。故人がお好きだった花や
色をお伝えして、故人様とおうちのの方に喜んでいただ
けるよう、飾ってもらいます。

そして、女性スタッフと司会者。彼女たちは、お疲
れになっている喪家の方に成り代わり、親戚や弔向にい
らした方々のお世話をさせていただきます。又、司会
のものは、お式をスムーズに行かせ、家族の方々がど
んなに故人様を思っていたか、ご弔向にいらし
た方々にお伝えし、皆様に亡くなった方を心から偲ん
でいただくよう、配慮させていただきます。

又、霊柩車やマイクロバス、タクシーの運転手の方々。
事故の無いよう、尊厳を持って斎場までの葬列を
おごそかに進めてくださっています。

まだまだ、いろいろあります。 供養屋さん、湯灌屋
さん、料理屋さん、テント屋さん、遺品整理の方など
など。

誰一人かけても、御葬儀はできないのです。
このような、業者さんたちに支えられて、花みずき
は皆様の御葬儀をさせていただいていることを忘れず
に、これからも感謝の気持ちを持っておくりびととい
いと思っています。

最近では、『遺品整理』

という言葉もインターネ
ットの検索ワードに出て
くるぐらいに、普通の言葉
になりつつあります。

今回は、遺品整理を専門
としておられるエコマス
ターの森さんにお話しを
伺いました。



遺された者の苦悩

「遺品整理」とは亡くなられた方の家財を回収・
処分する仕事です。私がこの仕事に携わりだした
7年前は、まだまだ知名度の低い仕事でした。最
近ではテレビや雑誌などでも取り上げられる事
があり、ご存知の方も増えてきたのではないかと
思います。

ただメディアでは遺品を整理する際に涙あり哀
しみありというドラマチックな部分が映されま
すが、実際の現場ではそのような美談は少ないで
す。むしろ私が受けるお仕事は、何年も音信不通
だった親族が孤立死された時の自宅の整理がほ
んどです。そして孤立死に至った理由について
は、ご遺族も伏せておいて欲しい部分であり、私
たち第三者が触れることはできない部分かと思
います。

『日二十日二十』 は泥棒除けのおまじない？



12月12日に『十二月十二日』

と縦に書いた紙を逆さまにして
柱や軒下に貼ると泥棒除けにな
るとい風習があるそうです。
この日は、有名な大泥棒石川五
右衛門の命日にあたり、その天
下の大泥棒が捕まってしまった
日に泥棒除けをする風習は、関
西地方独特の風習だそうです。
逆さまにして貼るのは、泥棒は
上から入ってくるので、逆さま
にしていると読みやすいからだ
そうで、大泥棒も捕まった日な
らこれはお手上げだと泥棒も帰
っていくのだそうです。

先日、遺品整理作業が完了したあるご遺族から
お手紙を頂きました。その方は故人様の妹にあた
られる方で、兄が孤立死された直後にも関わらず、
親族の先頭に立って迅速な対応をされていまし
た。私に対しても誠意をもって話をしてくださり、
ありがたいという気持ちと女性はこのいう時は強
いなと感じる方でした。そんな方からの手紙だっ
たので、もうすっかり落ち着かれたという内容な
のかと思ったら、夫や友人、親戚との付き合い方
を一度見直したいという趣旨の内容で、私は驚き
ました。多くは書かれていませんでしたが、亡く
なった兄とは音信不通だった訳でもなかったの
に、周りの方々から「何故兄妹なのに連絡を取り
合っていないかったんだ！」と責められたようでし
た。故人様はまだ若く生前は仕事もしていただけ
に、彼女にとってはまさかという出来事だったか
と思います。しかしそのような周囲の言葉にその
方はひどく傷つかれていました。故人様のため
に一番尽くしたにも関わらず、一番責められた形にな
ったのですから、無理もないかと思えます。そし
て今度はその方と周囲の方々との間に軋轢が生じ
る形になったのは皮肉な話かと思えます。

客観的に見て誰が悪いというわけではないの
に、遺族は故人様を孤立死させたという罪悪感を
背負わされる事があり、この手紙からはそのよう
な家族のやり切れなさが感じられました。

このような孤立死はいつ頃から多くなったのか定
かではありませんが、私が物心のついた1970

年代にはあまり聞かなかったように思います。
その頃と現在でどれほど変化があったかは分かり
ませんが、孤立死はいまや社会問題とされていて、
行政や地域もこの問題に取り組んでいます。また
この問題には「第三者が関る難しさ」があるにも
関わらず、地域の方々には本当によくされているか
と思います。これはご遺族から第一発見者が地域の
方だったという話が多い事からも伺えます。それ
でも様々なご事情で家族との繋がりが希薄な一人
暮らしの方がいる限り、この問題は簡単に解決し
ないように思います。

私は遺品整理の仕事を通して色々な孤立死のケ
ースを見てきました。その経験から言えるのは、
「もし疎遠にしている家族がいて、その方が亡く
なった場合、自分はどこまでその責任を負えるの
か」という事を想像してみたいという事です。
そうすればもし第三者としてそのような立場の方
を見たら、その人にかける言葉は死への責任追及
ではなく、哀悼とねぎらいだと気づけるのではな
いでしょうか。また実際に人が亡くなるとどのよ
うな手続きが必要なのかなど、事前の心構えとし
て調べておいても損はないかと思えます。

些細な事でもこの問題
を考えるときつかけになっ
たのであれば、今日お話し
たことが少しでも役に立
ったと報われる次第です。



お便り紹介

『花みずきだより(秋号)』を拝読させていただきました。創刊号からずっと拝読しております。すっかり充実された立派な“地域の情報誌”であると感服いたしております。毎日、葬儀の現場に携わっておられる方々の生の実態の声や感想が紹介され、これまで縁遠いものと考えていました『葬儀』について、とんでもなく身近な問題であることや、できる限り早い段階での心準備や家内相談が必要であることを痛感いたしました。花みずき会館主催のフリーマーケットや内覧会、

夏には施餓鬼供養の法要等の地域に密着された活動を直々と進められており、以前には敬遠していた『葬儀屋さん』のイメージでなく、何でも相談できる『地域の会館』であることを強く感じた次第です。今後とも益々のご発展と活躍を祈念いたしております。
平成二十四年九月東淀川区 Aさん
励みになるお言葉を頂きまして本当にありがとうございます。これからも精進致します。
スタッフ一同

イベント情報 12月2日(日)感謝祭

来る12月2日(日)午前10時から花みずき会館7周年記念の感謝祭を開催いたします。今回は、花みずき会館初の試みとなる「エンディングノートセミナー」を実施いたします。

これまで歩んできた人生について。

現在保有している財産について。

そして、自分の健康の事。葬儀、お墓のこと…。

なんとなく頭でイメージしていても、意外にきちんと考えていなかったり、ちゃんと家族に伝わっていなかったりするものです。今まで、興味はあったけど機会がなかったという方、この機会にぜひご参加下さい。

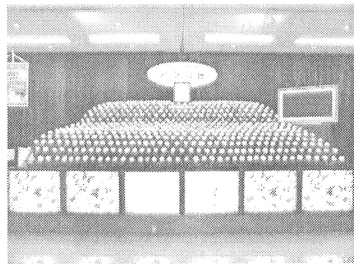
又、プロのカメラマンによる「撮影会」や前回の花みずきだより秋号にてご紹介いたしました「手元供養」の展示販売・葬儀に関する事前相談コーナーなど、今話題の「終活」を支援する内容が盛りだくさんです。

その他、毎年恒例の野菜袋詰め放題やシクラメン特価販売、日用品バザーやプリザーブドフラワー教室といったイベントも行います。

詳しい内容はwebでも案内いたしますので

花みずき会館 イベント で検索をお願いいたします。

皆様のご来館、スタッフ一同心よりお待ちしております。



終活を始めてみませんか?



二年前の平成22年に女優 中村メイコさんの「人生の終い支度」という本が話題になったように、最近『終活』ということばを良く目にします。

『終活』とは、人生の「終わりのための活動」を略した造語で、終わりを見つける事で今をより良くすることです。

終活は、具体的に3つに分類されます。

① ライフプラン

生活費のことや趣味・旅行計画などこれから生活していく上でのこと。

② エイジングプラン

介護が必要になった時のことを考えて、住まいや施設・病院などを考えること

③ エンディングプラン

相続のこと・尊厳死や献体など病後の意思表示・葬儀のこと・お墓のこと

これらのことを考えて、今までの自分の生涯を振り返ることで、改めてご自身のことや人とのつながり

掲載原稿募集

引き続き皆様の葬儀体験や故人様へのメッセージ等を募集しております。

・大切な方に伝えたいありがたい言葉

・喪家となって大変だったこと

・お葬儀を通じて感じた事、気づいた事 等

50文字〜1600文字以内で花みずき会館までご送

付下さい。お送りいただいた方には、心ばかりのお礼

を差し上げます。※掲載時には〇〇区 Aさん〇〇のよ

うにイニシャル表記にしますが、匿名希望の方はその旨も明記して下さい。

りを再認識できます。そうする事により「元気なうちに夫婦で旅行にいつておこうかな。」とか「最近、お世話になった方とご無沙汰なので挨拶に伺おうかな。」と、生活や行動にも活力が出てくるというものです。ご自身の葬儀についても、「実際に食べてみて美味しかった料理をふるまってほしい。」「一番いい顔をしてこの写真を使ってほしい。」「大好きなジャズを流してほしい。」と希望を書き残しておいたり、連絡先リストを作っておいたりすると、送られる家族の方の負担も軽減されます。

今回の感謝祭では、終活の中のエンディングプランを考えるのにとっても役立つ「エンディングノートセミナー」を行いますので関心のある方はご参加下さいませ。今までそういったことに関心の無かった方も、これからの人生をさらに充実した良いものにするためにも、この機会に終活を始めてみてはいかがでしょうか？

尚、ご送付頂いた原稿はお返し致しかねますのでコピーを送付して下さい。
送付先
〒533-0014
大阪市東淀川区豊新5丁目19番16号
花みずき会館 花みずきだより係

お問い合わせは、0120-36-8622
花みずき会館まで

最後までお読み頂き、ありがとうございます。
今後皆様役に立つ情報を提供するために、ご意見や感想をお待ちしております。
スタッフ一同